

2016年度経済学部ゼミレポートフェス  
ティバル  
李ゼミ報告者写真  
(2016年12月17日(土))

報告者 : 報告テーマ

横田圭祐・飯田廉・鈴木敦己・田坂茉美 : 「福島原子力発電所の廃炉問題」

原田大輔・大嶋康平・都築麻由 : 「エコ住宅と普及制度」

杉山賢也・加藤宗春・深尾佳世 : 「日本の容器包装廃棄物とデポジット制度」



1 研究の背景と目的

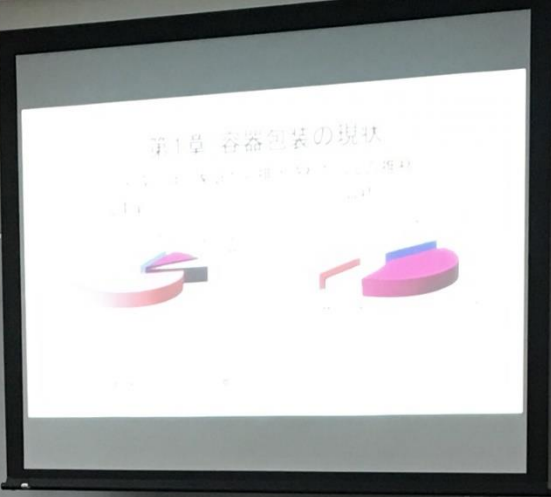
**本研究の背景**  
 資源の乏しさを背景として、資源の有効な活用を図る。資源の有効な活用は、資源の有効な活用を図る。資源の有効な活用は、資源の有効な活用を図る。資源の有効な活用は、資源の有効な活用を図る。

**本研究の目的**  
 本研究は、資源の有効な活用を図る。資源の有効な活用は、資源の有効な活用を図る。資源の有効な活用は、資源の有効な活用を図る。資源の有効な活用は、資源の有効な活用を図る。

室名: N504  
 定員: 70名  
 ↓↓↓↓

D会場

報告



室名 N504  
定員 70名

D会場

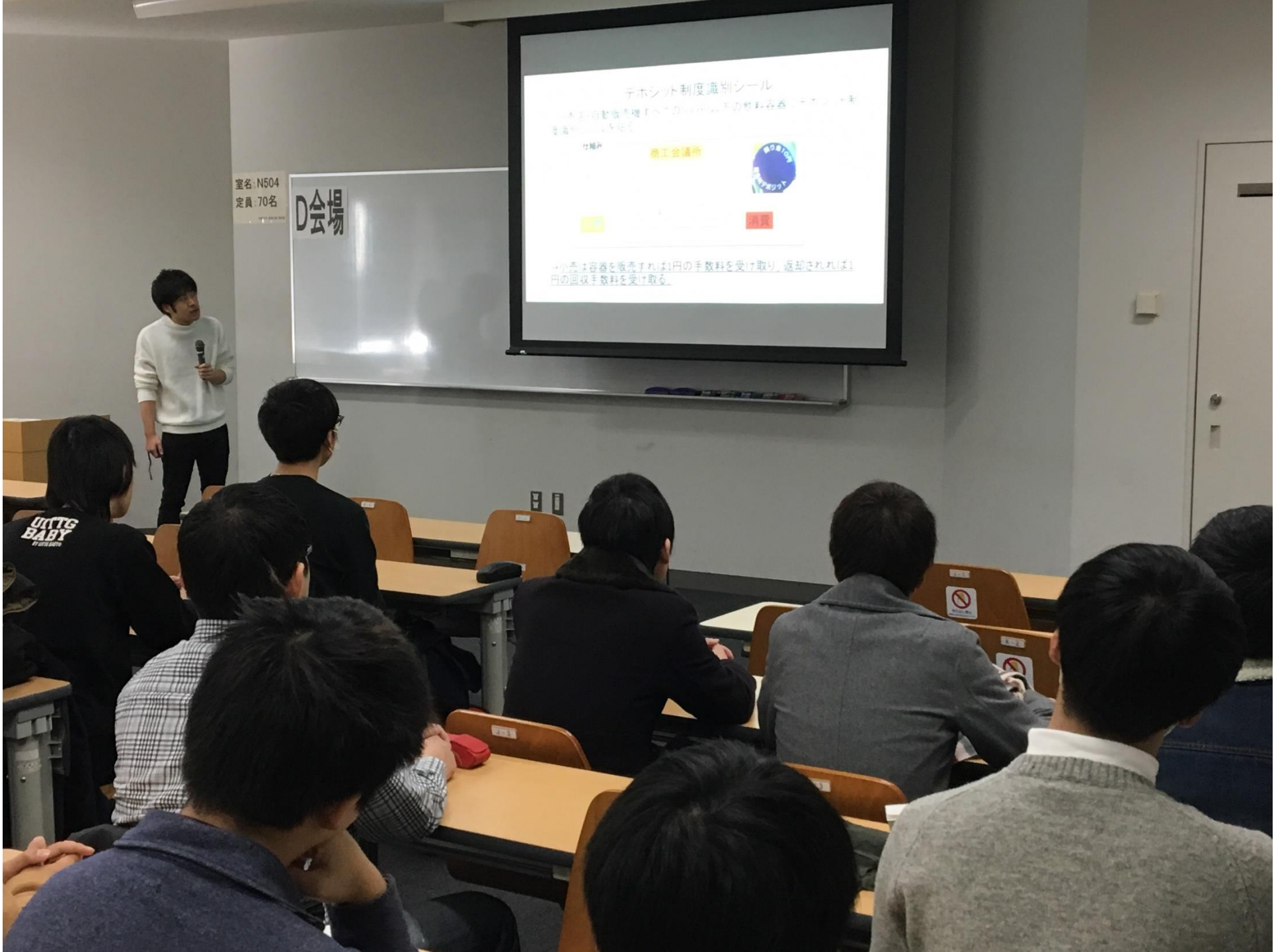
報告



大分県 唯見村の子ホジド制度  
1. 目的  
2. 趣旨  
3. 組織  
4. 役割  
5. 活動内容  
6. 効果

室名 N504  
定員 30  
D会場





デポジット制度識別シール

本会の自動販売機「へろ」の容器に貼られる「デポジット制  
度識別シール」の様子

付随品

- 飲工券通帳
- MOTION
- 酒類

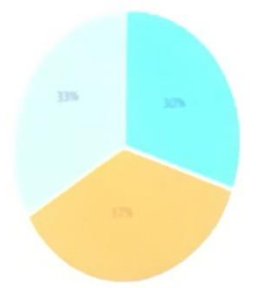
「へろ」は容器を販売すれば1円の手数料を受け取り、返却されれば1  
円の回収手数料を受け取る。

室名 N504  
定員 70名

D会場

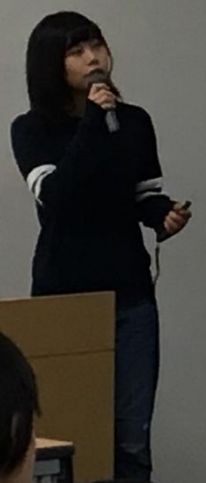
UTTG  
BABY

# テホジット制度に対する認知度



室名: N504  
定員: 70名

D会場



報告

UNITG  
BABY



ご清聴ありがとうございました。



室名 N504  
定員 70名

会場

報告席





経済学部 環境経済学  
2016年12月17日

# エコ住宅と普及制度

報告者: 田中 健一  
報告者: 田中 健一

室名: N501  
定員: 72名

A会場

報告者

経済学部731レポート発表会  
2016年12月17日

# エコ住宅と普及制度

経済学部3年 李七七  
原田大輔 大嶋康平 新築麻由

室名:N501  
定員:72名

A会場

報告者



## 研究背景と目的

### 研究の背景

### 研究の目的

室名: N501  
定員: 72名

A会場

報告者

## エコ住宅のメリット②

### 快適、健康に生活できる

- 部屋の温度変化が少ないため、風呂、トイレなどのヒートショック現象やカビ、ダニを防ぐことができる

### 商品券や地域産品などとの交換

- 住宅エコポイント制度で、住宅を新築したり、リフォームするときにポイントが発行され、商品券や地域産品と交換できるだけでなく、ポイント対象となる新築工事の追加工事の費用に充てることができる

14

室名: N501  
定員: 72名

A会場

報告者



## エコ住宅のメリット2

### 快適、健康に生活できる

• 自然の温度変化を利用した自然換気システムにより、室温が安定し、湿度も適度に保たれる。

### 商品費や地域産品などの空費

• 住宅の設計・施工段階から、地元産品や地元産材を利用することで、輸送コストを削減し、商品費や地域産品などの空費を削減できる。また、地元産品や地元産材を利用することで、地元産品や地元産材の需要を促進し、地元産品や地元産材の生産を活性化させることができる。

室名: N501  
定員: 72名

A会場

報告者

8-5

H-5

1-4

1-5



# エコ住宅選好度①

現在エコ住宅に住んでいるか



住んでいないけれど、手前はエコ住宅に住みたいか



室名: N501  
定員: 72名

A会場

報告者



経済学部ゼミレポートフェスティバル  
2016年12月17日

# 福島原子力発電所の 廃炉問題

経済学部 李ゼミ  
横田圭祐・飯田廉・鈴木敦己・田坂茉美



## 本研究の目的

- この研究の背景  
福島第一原子力発電所事故以来、国は廃炉を進めているが、今もなお汚染水が増え続けていたり、大量の核廃棄物をどう処理するか、それに伴う莫大な費用は誰が負担すべきなのかなどの様々な問題があり、廃炉が完了するまでに30年~40年かかると言われている。このような問題点について今後の望ましい解決方策を考えていきたい。
- 目的  
廃炉問題の解決
- 研究方法  
web調査、文献調査、ヒアリング調査

室名: N502  
定員: 70名

B会場

報告者



# I. 福島原発事故と放射線問題

▶ 2011年3月11日に日本を襲った巨大地震と津波の後、福島第一原子力発電所の1~3号機の建屋で水素爆発が発生、4号機は火災が発生。



室名 N502  
定員 70名

B会場

報告書

## II. 福島原発の廃炉問題と 廃炉費用

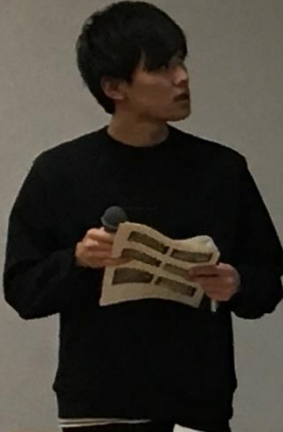
廃炉作業中または  
廃炉予定の原発

事業者	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機
東電	1号機 (45年)	1号機 (41年)	2号機 (37年)	3号機 (34年)	3号機 (34年)
中部電力	1号機 (44年)	2号機 (42年)	4号機 (33年)	5号機 (33年)	5号機 (34年)
関西電力	1号機 (41年)	1号機 (32年)	2号機 (30年)		
北陸電力	1号機 (38年)	2号機 (30年)			

- ◆ 日本に福島原発だけでなく老廃炉も多く、「原発廃炉の時代」だ。
- ◆ 中部電力では東日本大震災前廃炉が進んでいる。
- ◆ 2016年3月新たに5基の廃炉が完了した。
- ◆ 今後は各原発の具体的な廃炉計画が重要になる。

室名: N502  
定員: 70名

B会場



報告者





## II. 福島原発の廃炉問題と 廃炉費用

廃炉作業費(1)と  
廃炉作業費(2)

項目	金額(億円)
1. 廃炉作業費(1)	1,100
2. 廃炉作業費(2)	1,100
合計	2,200

- 日本に福島原発だけでなく老朽化した原発も多く、「原発廃炉の時代」が訪れた。
- 中部電力では東日本大震災前から廃炉作業が進んでいる。
- 2016年3月新たに5基の廃炉が決定した。
- 今後は各原発の具体的な廃炉計画が決まる。

室名 N502  
定員 70名

B会場

報告



### Ⅲ. 廣伊先進国の事例分析 ~イギリス~

- ▶ 事例：名称化。
- ▶ 現状：廣伊が決定しているお茶の中から、現在は**イギリス**が廣伊に寄り添っている。
- ▶ 課題：作業完了までに100分かかる、タービン燃焼と燃料プー  
ル燃焼機、**イギリス**の「安全装置」を定めて、自然に燃焼温度が  
下がるのを待つ。その際、燃焼を止めてためのアルミニウム  
量を調整中。
- ▶ 対策：廣伊側は政府負担と決めており、燃焼は**2019年度**  
**開始**、燃焼の収支額は**100%**となる見込み。
- ▶ 展望：2040年までに最終処分場を決定。

室名 N502  
定員 70名

B会場

報告



## 火力への転換 ~アメリカ~

- ▶ 要因：シェールガス革命による火力発電のコスト減。
  - ▶ 現状：約10%の原子力が存在し、米国については廃炉が完了している。
  - ▶ 経緯：1990年代に決定された30年計画のうち、2014年まで（**計画**）は達成が完了。2020年までに、安全対策を打ち切って2050年までに廃炉予定。
  - ▶ 影響：**計画**の廃炉後の影響を考察する。
- ⇒ 日本は廃炉に発生するコストをハイドレードでも賄えない

室名 N502  
定員 70名

B会場

司会者

発表者

